

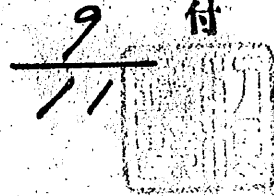
2027

功績調査部長殿

機密第二三號ノ三

三月十六日送付

昭和十九年三月九日



19.4.6  
長文

軍機利根戰鬥詳報第六號

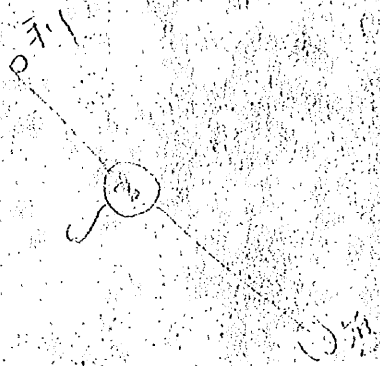
第一號作戰中三月九日ノ戰鬥對スル分

軍機利根

(イ)	(ロ)	(ハ)	八	七	六	五	四	三	二	一
天	寫	戰	參	功	我	戰	令	經	計	形
氣					が	果	達			
			考	績	兵	及	報	過	畫	勢
圖	真	訓			力	被	告			
					ノ	害	等			
					現					
					狀					

目

次



昭和十九年三月九日戰鬪詳報 軍艦利根

(サ) 第一號作戰中三月九日、戰鬪對スル令

形勢

南西方面部隊(サ) 第一號作戰部隊奇襲隊指揮官(第十六戰隊司令官左近允少將)ノ指揮下ニ三月三日早朝スルシテ海峡出撃三月九日晝間索敵配備右翼艦トシテ旗艦ノ右正横六。 艀ニ占位針路ニ一。度、速力一。節ヲ以テ索敵中艦橋見張員、二六。度方向約四。〇。〇。米ニ敵煤煙ヲ發見ス

當時ノ狀況左ノ通ニシテ索敵飛行機使用シテラス

視界三。艀(對水平線)

風向九三度、風速九米

波浪階級三、ウネリ方向南東階級三、氣壓七六。氣温三五。八雲形積乱雲量八、天氣晴曇、特ニ發見方向(スコール)ノ果雲ヲ背景トシテ視認困難ナル狀況ナリ

二 計畫

(1) 任務、企圖

機密、第一號作戰部隊奇襲隊命令、第一號、通

(2) 作戰準備

(一) 拿捕回航班ヲ編制ス(別紙第一)

(二) 敵偽購ノ方策ニ関シ研究準備ス

(1) 大型擬米國軍艦旗ヲ作製シ、御敵意ヲ被覆ス

(2) 國際通信書信號編ニ就キ敵ノ迅速停航、送信遲滯

等ニ必要ナル信文ヲ研究準備ス(別紙第二)

(三) 徹甲彈及魚雷節約ノ為、爆雷ヲ以テスル擊沈法ヲ研究準備ス

備ス

(四) 作戰ニ對シ特ニ訓練研究セル事項

(1) 飛行索敵及拿捕圖上演習

- (三) 敵艦發見後ノ處置ニ関スル計畫
- (1) 發見共速ニ且離隔レ増速及戰鬥準備ヲ完了シ適當ナル方向ヨリ接敵ス
  - (2) 敵艦ノ性質、種類特ニ病院艦ニ非ザルヤ、護衛艦、僚艦ノ有無、武裝、敵速ヲ偵察、測定シタル後急速近接ス
  - (3) 敵ヲ偽購スル處置ヲ講ジ且連續信号ヲ行ヒ敵ノ注意ヲ之ニ牽制シ短時間ニ有効射擊距離ニ進入ス
  - (4) 但シ敵ノ防禦砲力、魚雷、有無ヲ考慮ス
  - (5) 敵逃走セトセバ砲擊停艦セシメ拿捕回航班ヲ派遣シ情
- (2) 對商艦机上射擊、彈藥使用法
  - (3) 拿捕回航班ノ各種訓練 (別紙第三)
  - (4) 對敵艦信號法
  - (5) 敵艦曳航法

三月九日	時刻	自艦ノ戦闘經過	自艦ノ戦闘經過
一一九	最大戰速即時待機ヲ令ス	針路ニ。度速力一。竹節艦内哨戒第三配備ヲ以テ警戒航行中索敵中	右舷五。度真方位ニ六。度方向遠距離(約四〇〇。米)ニ煤煙ヲ認め配置ニ就ケヲ令ス
一一七	第二戰速二十三竹節		
一一五	第三竹節即時待機ヲ令ス		

三經過

(1) 自艦ノ戦闘經過

(ホ) 況ヲ調査シ回航又ハ撃沈ヲ決定ス  
 撃沈ハ至近距離ノ砲撃又ハ雷撃爲得レバ爆雷ニ依ル

一一二〇	針路三八〇度
一一二五	針路二五三度
一一三三	敵艦ノ煙突見ニ商船型ニシテ相當大型ナルトヲ認メタルモ 病院船ナルヤ否ヤ判明セズ
一一三七	針路三八五度 奇襲隊ニ對シ敵艦發見ヲ電報ス
一一四〇	戰闘ヲ令ス
一一四一	魚雷戰用意ヲ令ス
一一四六	スコルノ爲敵影ヲ見失ヒシヲ以テ電探ヲ使用シツシ敵 魚雷有効射程ニ不期近接スルヲ警戒シツシ敵ニ追躡 ヲ企圖ス
一一四七	拿捕隊員整列ヲ令ス 針路二九五度

一 二 五 三	針路三三〇度
一 二 五 六	主砲左砲戰ヲ令ス 高角砲左砲戰ヲ令ス
一 二 五 九	針路三一〇度
一 三 〇 〇	左舷四一度真方位二七六度一五五〇米敵艦ヲ認め敵針 右外二〇度敵速一五節目測ス
一 三 〇 一	敵ハ貨物艦ナルヲ確認ス但シ船旗不明瞭ニシテ英國艦 ヲ認ム
一 三 〇 二	針路二七五度ニ變針第四戰速ヲ令ス
一 三 〇 五	敵艦ハ船尾ニハ乃至一〇種砲二門ヲ有スルヲ認め其ノ有 効砲戰距離ヲ八〇〇米ト判断ス 敵ノ送信妨害ノ目的ヲ以テ電報打ツ勿シ次ヲ偽購ノ目的 ヲ以テ我ハ米國巡洋艦ナリ重要通信アリ近寄シテ國際



一 三 一 五	信號(旗流及ビ發光)ニ依リ送信セルモ敵ハ了解セズ 敵ハ取舵ヲ取り漸次群退セントシツテト觀察ス
一 三 一 七	針路三三五度ニ變針測距九〇〇米ヲ得テ主砲打方始 区次ヲ「艦高角砲打方始」ヲ令ス 初彈發砲後敵ハ取舵ヲ取り逃走ヲ企圖スルヲ認ム
一 三 一 八	主砲彈命中(ニ發確認)針路ニ三三五度ニ變針 敵艦電報ヲ打タルモ命中彈ニ依リ發信ヲ止メタルヲ知ル
一 三 二 〇	主砲高角砲打方待テ「人々」敵艦ニ注意セルニ停止スルヲ 認ム(發射彈數主砲通常彈ニ四發高角砲通常彈 一五發)
一 三 二 二	國際信號ヲ以テ「降服」セヨヲ送信ス
一 三 二 四	右砲戰タル第一戰遠トナス、敵救助艦ヲ却ス、 敵艦ノ傾斜シ始ムルヲ認ム

一三五〇五	敵艦沈没ス	「打方止」次「戦闘要具收」ヲ令ス
一三五〇	敵艦轉覆ス	
一三四三	敵艦急速ニ傾斜度ヲ加フルヲ認ム	
一三三九	兩舷機ヲ停止ス	
一三三六	「高角砲打方待」ヲ令ス（發射彈數通常彈五四發）	
一三三四	七發） 主砲打方待ヲ令ス（發射彈數通常彈八發、徹甲彈）	
一三三一	主砲打方始メヲ令ス	
一三三〇	測距三〇〇米ヲ得ニ「高角砲打方始」ヲ令ス	
一三二七	前進強速トス	
一三二七	敵ハ金民辨ヲ開キ自沈セント企圖セルモト判断シ且奪捕回航班派遣ヲ危険ト認メ速ニ撃沈セント決心ス	

(ハ) 合戦圖 (別圖)

(四) 作戦ニ影響セル事項  
特ニ  
ニ

一四〇八	二十八節即時待機ヲ令ス
一四三〇	敵弱者收容ニ爲第「カッター」ヲ卸ス
一五〇〇	敵生存者全部ヲ收容シ捕虜トシ訊問ヲ開始ス
一五〇三	原速
一五〇六	強速
一五〇六	第三戰速
一五〇〇	針路九〇度
一五二二	針路一四〇度
一五二六	針路一五〇度
一五三〇	青葉ノ橋ヲ認め、針路二一〇度

5

命令達 報告及通報

本 一五四〇	本 一三〇六	本 一三五〇	本 九日 一三三七	發 元 日時	受 日 時	令 達 報 告 等	種 別
上 165	敵 艦	敵 艦	敵 艦 P 165 奇襲隊	九日 一三一〇	免 通報	敵 商 艦 一 隻 見 エ 位 置 ニ 不 夕 四 八 針 路 三 一 〇 度	無 電
夕十一 二三一七砲撃處分終了 「メルボルン」發「ボンベイ」行英國貨物船約七〇也	降服セヨ(國際通信書)	我ハ「アメリカ」巡洋艦ナリ(國際通信書)	電報ヲ打ツ勿レ(國際通信書)				
發	旗 流	旗 流	發 光				

三、捕虜陳述、要旨次如シ

（一）基準針路三一九度

（二）附近艦艇船舶ナシ

（三）九〇〇米砲撃開始直前迄、日本巡洋艦卜判

明セズ

四、參考事項

（一）三輝徹甲彈七、通常彈三二、高角砲彈四二

（二）近接中衛紋章ヲカクシ大型米國國旗ヲ

「ヤード」ニ掲ケタリ

（三）敵緊急信ハ砲撃直後送信セルモ通達不

確實ト認ム（勢力大符號不明瞭字數約三〇

字）

（四）砲撃開始ヨリ捕虜全部揚收迄所要時間

	<p>本 一六〇。</p>	<p>本 一六〇。</p>
	<p>一六一五 P 165</p>	<p>一六〇六 P 165</p>
<p>一時間四三分 捕虜船長以下三九名 (内白人士官一人外六人其他印度人) 八天測計算記録印度洋氣象圖外獲得 作戰資料ナシ</p>	<p>夕十三 敵船ノ位置次通 一七日一〇。頃D点附近 二八日一〇。南緯六度一分東經九二度二分</p>	<p>夕十三 一三八頃敵商船五。KC三R連送位置ヲ 打テリ本艦容量九三元感五アリモ貴艦ニ テハ如何</p>
<p>光</p>	<p>發 光</p>	<p>發 光</p>

<p>△ 165</p>	<p>本 一六四三</p>	<p>左記事項詢問報告サレ度 國籍 船名 最大速力、當時使用中速力</p>	<p>光 發</p>
<p>△ 165</p>	<p>本 一六四〇</p>	<p>左記事項詢問報告サレ度 國籍 船名 最大速力、當時使用中速力</p>	<p>光 發</p>
<p>本 △ 165</p>	<p>本 一六四〇</p>	<p>左記事項詢問報告サレ度 國籍 船名 最大速力、當時使用中速力</p>	<p>光 發</p>
<p>本 △ 165</p>	<p>本 一六四〇</p>	<p>左記事項詢問報告サレ度 國籍 船名 最大速力、當時使用中速力</p>	<p>光 發</p>

1937年12月2日  
 参照

2042

<p>本 一六三。</p>	<p>本 一七〇。五</p>	<p><math>\frac{A}{165}</math></p>
<p>本 <math>\frac{A}{165}</math> (一六五〇)</p>	<p>本 <math>\frac{A}{165}</math> 一七一。</p>	<p>本 一八〇。二</p>
<p>夕十五          英國貨物船の最大速力は當時使用          速力より</p>	<p>夕十四          敵緊急信ニ付調査セル處左ノ通          一、宛フリマント          二、本文凡連送(本艦受信)          位置南緯九度東經一〇九度(疑問)          三、Rハレーダイノ畧語          四、電波五。KC          五、付劃ハ不良ナルモ凡連送ハ通達セルモノト認め</p>	<p>五。KC以外ノ電波ニテ電報ヲ送信ト非ナル          ヤ調査セル度青葉ハ五五。KC附近ニ極メテ          高感度ノ長符連送スルヲ聴知セリ</p>
<p>發光</p>	<p>發光</p>	<p>發光</p>



	<p>1720 P/BS</p>	<p>P/BS</p>	<p>P/BS</p>	
	<p>本</p>	<p>一八二五</p>	<p>本 八一五</p>	
<p>夕十八X十八X</p>	<p>増設機銃三挺 P十挺 整修機銃</p>	<p>現針路速力ヲ行ク予定各艦ハ明日日出 一時間前以後所定ノ搜索配備ニ付ケ</p>	<p>機密中第一號作戰部隊奇襲隊命令作 第一號別紙第四項敵艦船隻處理要領ニ 依ル敵艦船隻之ヲ拿捕スルヲ立前トシ情況 止ラ得ザル場合ノ之ヲ撃沈スルコトト定メラ レアル處撃破スルニ至リタル件参考ノ爲敵 知レ度</p>	<p>發 發 發</p>

本 一九〇五

一九二五  
△  
165

敵船ヲ撃沈セル理由左ノ通

一 停船マデ通ホ希彈ヲ射撃セルニ急遽ニ右

舷ニ傾斜シテ船員ハ短艇ニ退船セシヲ

以テ金氏辨ヲ聞キタルモノト判断 状況止ムヲ

得サル場合ト認メタリ

二 船内ヲ搜索シテ作戰資料ヲ得ントセル其ノ

暇ナク沈没セントスルヲ見テ撃沈ト決心シ

爾後ノ上處理ヲ迅速ナラシムル爲メ射撃

ヲ再興ス

三 事前ノ研究ニ依リ十五節級ノ船舶ハ七日

以後ハ回航不適ト判断シラレテ處測的ノ

結果敵速十四節ヲ得タリ

四 尚本日ノ位置ハ圖演後司令官ヨリ承リタル

發

五、戰果及被害  
の戰果

英商船(七六〇噸)一隻撃沈  
捕虜

英人四名 中國人三名

<p>165</p>	
<p>二〇五五 奇襲隊</p>	
<p>爾今敵船ノ撃ハ特ニ止ムヲ得ガ 場合ノ外司令部ノ指示ヲ待ツテ ノコトセラレ度 右命ニ依リ</p>	<p>田航可能範圍ヲ遙カニ遠方ナリニ依リ假令 無損害ノ儘拿捕シ得タル場合ニモ撃テ沈ヲ 令セラルルモノト思考シタリ</p>
<p>光</p>	<p>發 光</p>

(1)

印度人、ゴア人 計六〇名  
總計一〇四名  
被害 ナシ

六、我兵力ノ現狀  
戰力即時全能發揮可能

七、功績

ニ曹大藏茂雄(舞後水ニ九五、普通科、掌信務兵)  
視認困難ナルニ均ラス、克ク敵煤煙ヲ發見セリ

八、參考  
戰訓

(一) 通商破壊戦ニ関シ

(1) 通商破壊戦ニ索敵ニ空母ヲ使用セザレバ戦果ヲ大ナラシムル

コト困難ナリ

今回ハ天候不良ナラザリシニ拘ラズ長壽爲水偵ヲ使用シ得サル  
コト多ク會敵公算極メテ小ナリキ

(2) 通商破壊戦ニ大巡ヲ使用スル場合空母及基地航空兵力  
ノ支援不充分ナルトキハ豫期戦果ニ比シ拂フキ犠牲極メテ大  
ナル機会會アリ、即チ今次作戦ノ如キ情况ニ於テ敵ガ機動  
部隊ヲ急派シ我ノ退路ヲ要撃遮断スルハ多クノ場合可能  
ト認ムベク作戦ノ計畫及實施上留意ヲ要スルモノト思考  
ス

(3) 通商破壊作戦ノ推進部隊ヲ編組スル場合航續力カ  
ル艦ヲ交フルコトハ之ニ制肘セラルコト多ク不利大ナリ特ニ遠

ク捜進シ孤軍戦闘スベキ情況ニ於テ敵有力部隊ト決戦スルニ  
際シ装甲防衛著シク劣レル艦ハ落伍ノ危険多ク累ヲ全軍  
ニ及ボス惧アリ

(必) 敵ノ主用航路ヲ我ガ作戦基地ニ近カラシムルハ作戦ヲ容易有効  
ナラシムルヲ以テ爲シ得ル限り潜水艦ヲ以テ豫メ敵航路ノ変更  
ヲ強要スル如ク計畫スルヲ有利ト認ム

(必) 巡洋艦等ヲ用ヒ南印度洋通商破壊戦ヲ連續實施スルハ  
敵ヲ刺激シテ其ノココロ島航空基地強化ヲ過早ニ誘導  
スルノ惧アルヲ以テ之ニ對スル我ガ航空兵力配備完整ト睨ミ  
合ハセ計畫スルノ要アリト認ム

然ラバ敵ハココロ基地航空兵力ヲ有効ニ利用シテペレバン  
「リ」ガ「スマトラ」南岸等ニ對シ積極的作戦ニ出ヅルハ自然カ  
ラシ

(1) 南印度洋ニ於テ相當ノ戰果ヲ收メトセバ行動日數ヲ延長シ綜合會敵機會ノ増大ヲ圖ラザルカラス、之ガ爲ニ潜水艦ヲ使用スルヲ最適當トシ特ニ護衛艦無ナル現狀ニ於テハ通商破壊ノ効果大ナルモノアルベシ

(二) 敵艦處理ニ関シ

ハ敵艦ヲ回航スベキ海域ノ限界ハ豫メ敵艦速度、敵情等ニシキ之ガ標準ヲ明示シ置キト共ニ敵發見ニ當リハ迅速ナル部隊ノ指揮官之ヲ指示スルヲ建前トスルヲ可ト認ム

(2) 敵病院艦ニ對スル處理ハ之ガ擊沈、拿捕、及ボス報復手段ノ實害程度、被發見ニ依ル作戰企圖ノ暴露等之ガ迅速ナル處理上極メテ複雑ナル考慮ヲ必要トスルヲ以テ豫メ中央及高級司令部ノ意圖ヲ明示シ置キ萬全ノ對策ヲ準備シテ必要ト認ム

(3) 回航班ニ巡洋艦ノ乗員ヲ充ツルハ爾後ノ戰鬥力發揮ヲ困難ナシレムルノミナズ回航班員ノ勞苦危險甚大ナルヲ以テ充分ナル人員ト携行兵器トヲ充テ豫メ特別ニ編組スルヲ要ス利根型巡洋艦ニ於テ飛一ニ名中回航班員トシテ必要ナル班員一〇名ヲ派スルハ同等以上ノ敵ト會戰ヲ豫期スル場合到底不可能ナリ

(4) 敵艦ハ中小口径砲ノ通常彈ノミナハ容易ニ撃沈セザル戰例アルヲ以テ今回二十糎砲ハ各砲通常砲四徹甲彈一ヲ一群トシテ順次ニ射撃スルコト計畫セリ、然レドモ不意ニ巡洋艦ト會敵スル等遠距離砲戰ヲ行ハントスル場合ヲ考慮スルニ二彈種ノ遠近彈道性ヲ一層近似セシムルヲ必要トシ現狀在リテハ方位盤針等ニ修正裝置ヲ新設スルヲ要スルモノト認ム

(5) 敵艦撃沈ニ徹甲彈及魚雷ヲ使用セサルニハ天候許サ



- バ爆雷ヲ有効利用スルヲ適當ト認ム、之ガ一案トシテ本艦ニ於テハ敵船水線下ニ一米及一〇米ニ各一個ノ爆雷ヲ吊リ下クル如クシテ深度大ナル方ノ爆發ニ依リ他ヲ誘爆セシムルノ方策ヲ準備セリ
- (b) 敵船ニ急速近接シ其ノ無電使用及自沈ヲ妨遏スル爲ニハ偽購ノ手段ヲ講スルヲ可ト認ム本艦ニ於テ實施セル左ノ方法ハ極メテ有効ナリトモト思考ス
- (a) 英船多キ海面ナルニ鑑ミ大型擬米國軍艦旗ヲ前檣桁端ニ掲揚ス
- (b) 御紋章ヲ秘匿ス(御紋章ハ十二種ノ眼鏡ヲ以テセバ。。。。米以上ニ於テ視認シ得ルコトアリ)
- (c) 敵船長以下ヲシテ敵味方判別ヲ困難ナシシムルガ如キ信號ヲ連發シ之ヲ忙殺シテ注意ヲ牽制ス

(四) 寫

眞

(一) 敵船員が早期ニ乗艇退船スルコト多キヲ以テ拿捕回航員が  
自力ニテ敵船舷側ヲ登攀スル方法及要具ノ考案ニツキ研  
究準備ナルヲ要ス

(二) 敵船ヲ撃沈スル場合ニ於テモ捕虜ハ高級船員ニ三人ニ限定  
スルコトナシ機密漏洩ノ惧ナキ限り可及的多數ヲ獲得シ作戰資  
料ノ入手ヲ圖ルヲ利トス又印度人、ネグロ人等ノ下級船員  
ハ機帆船乗員トシテ活用スルヲ可トス

(三) 今回捕虜中ニ船客タル航空士官、砲員及水測員ナル海  
軍軍人中有効ナル資料ヲ供述セシメ得ベキ者及使用する可  
ナル下級船員並ニ船客相當者多クアリタリ

(1) 1324  
主砲彈命中傾斜シ始ム  
略

(2) 1343  
急速ニ傾斜度ヲ加フ  
略

敵船(英貨物船)「バハ」號(七六〇噸)  
撮影者、海軍飛行兵曹長 久保武雄  
撮影場所、艦橋

2054

2000

(3) / 350

轉

覆

2053

(1) 天氣圖  
略  
(別紙)

別紙第一

今手捕回航班編制表

配置	指揮官	指揮官附	同	機関長	機関長	機関長附	信號員	操舵員	應急員	電信員	兵
官	海軍大尉(予)	海軍少尉候補生	海軍兵曹長	海軍中尉(意)	海軍中尉(意)	海軍機関兵曹長	兵	同	同	下士官	兵
氏名(員數)	木本十郎	鈴木哲郎	松田元六	都築敏行	都築敏行	木津佐武郎	二	一	二	一	二
記	艦内戦闘配置 第二應急部指揮官	後部機銃群指揮官	発射發令所長	注排"水部指揮官	注排"水部指揮官	前部"左舷機分掌指揮官					
事											

衛生員		工作員		電気部員		機械部員		罐部員		米倉部員		兵器處理員
		下		下		下		下		下		下
同	兵	士官	兵	士官	兵	士官	兵	士官	兵	士官	兵	士官
一	二	一	二	一	四	三	四	二	七	五	九	五

下 兵	下 士	准 士	合 計	記 録 頁
	官	官 以 上		下 士 官
三	二		六	
六	〇	五	一	
名	名	名	名	
				二

(  
級  
三  
)



別紙第11

國際通信船無線電報符字(敵船(捕獲時))

番號	信文	符字	番號	信文	符字
1	汝ハ直チ=停止セヨ	K	11	電報ヲ打ツル (AGY--- 否定ト解スミシ TK--- 汝通信ヲ無線ヲ)	AGY-TK (QZB-DTB)
2	停止セヨ 我汝=重要通信ヲ有ス	L	12	点燈セヨ	CPA
3	我汝ト(メホト等ニ)直接話シ	JG	13	我ハア州カ巡洋艦ナリ	HJJ-ANM -EFR
4	汝ハ直チ=停止セヨ	ON	14	船ヲ沈ムルヲ欲スレバ 皆殺シニセン	AEW-RK -KJJ-28D -ATZ
5	我汝宛ノ電報ヲ有ス	RG	15	汝ノ船ヲ成ルハク早ク放棄セヨ	AH
6	我汝=信器セントス 信器湯中 距離内=接近セヨ	UZ	16	退船セヨ	EZS
7	汝ハ停止セヨ 我臨檢ス	HDT	17	汝ノ船ヲ放棄スル勿レ	AJ
8	停止セヨ 然ラレバ 我汝=對ニ 發砲セン	OL	18	降参セヨ	OMR
9	停止セヨ 我端艇ヲ送ルベシ	OP	19	汝ノ舷梯ヲ用意シテ	ICY
10	汝ハ陸岸(指示船)ト交通スル勿レ	JH	20	汝ハ指示舷側=舷梯ヲ降セ	ICZ

2059

21	右舷側=	N.T.N	24	後甲板	EQF
22	左舷側=	N.T.M	25	前甲板	G KX
23	指示場所=集	D.L.W-BMR -[...]			

(終)

2060

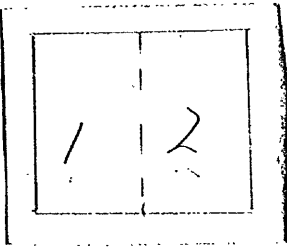
別紙第三

拿捕回航班主要訓練項目

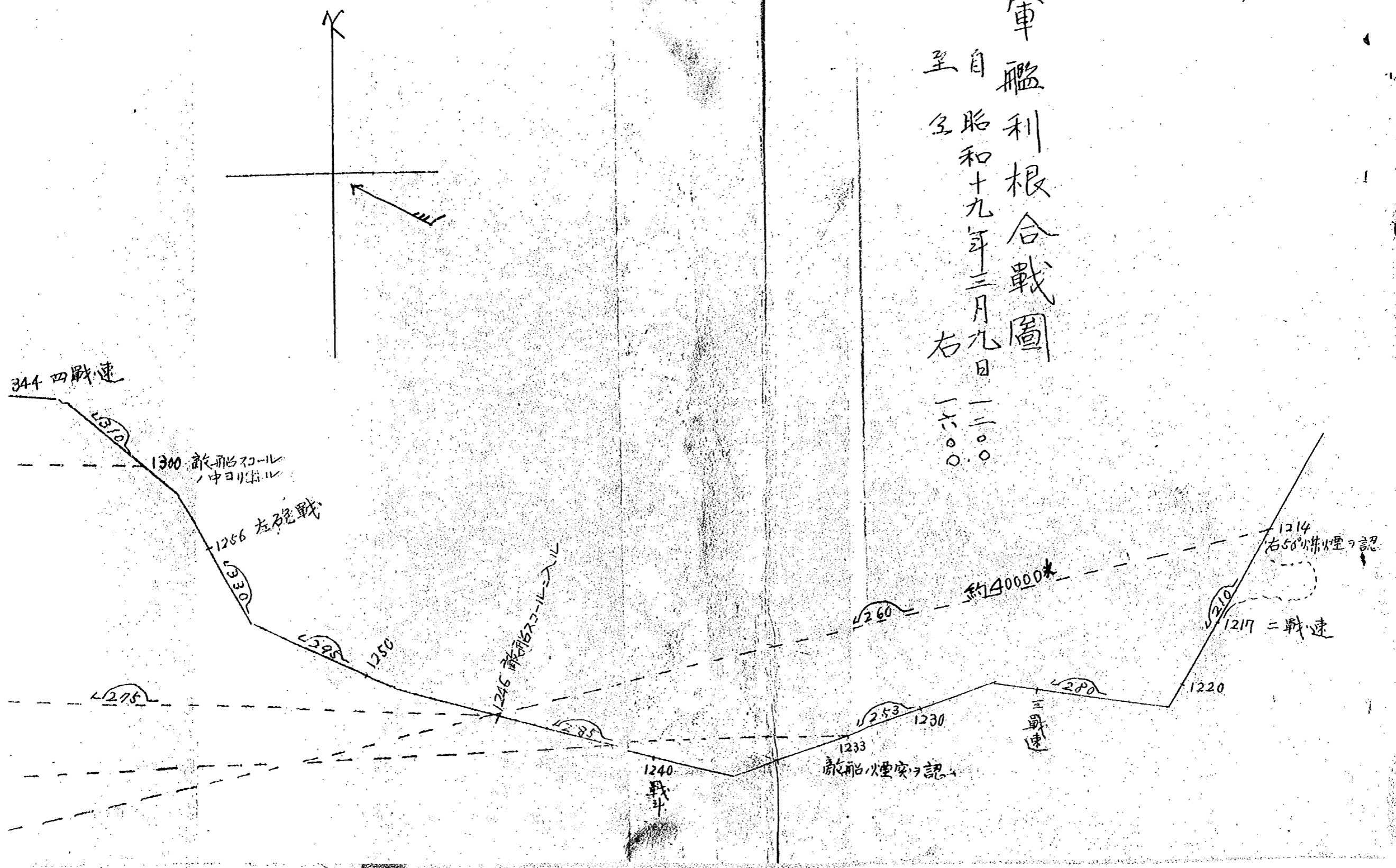
- 一、商船内ノ状況説明
- 二、隊装ノ装着訓練及武装点検
- 三、捕縄訓練
- 四、輕機銃及拳銃取扱訓練
- 五、規約信號通信訓練
- 六、机上演習（准士官以上）
- 七、敵船拿捕訓練（本艦ヲ敵船ト假想）

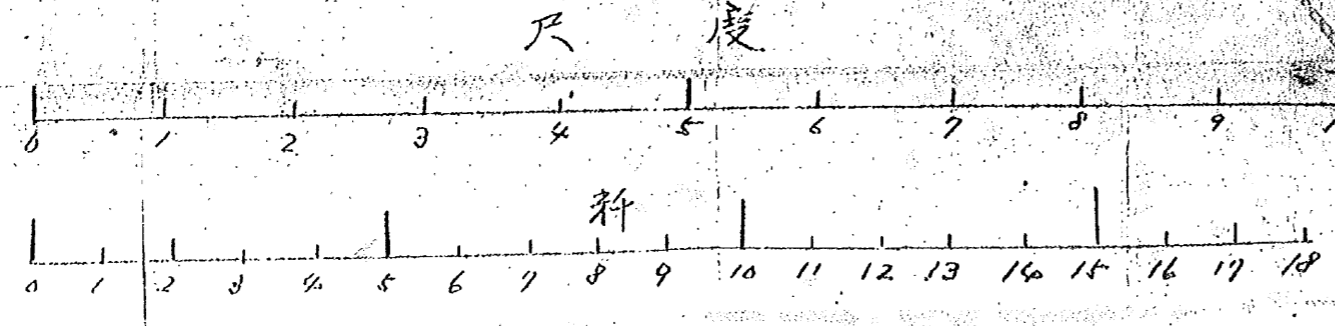
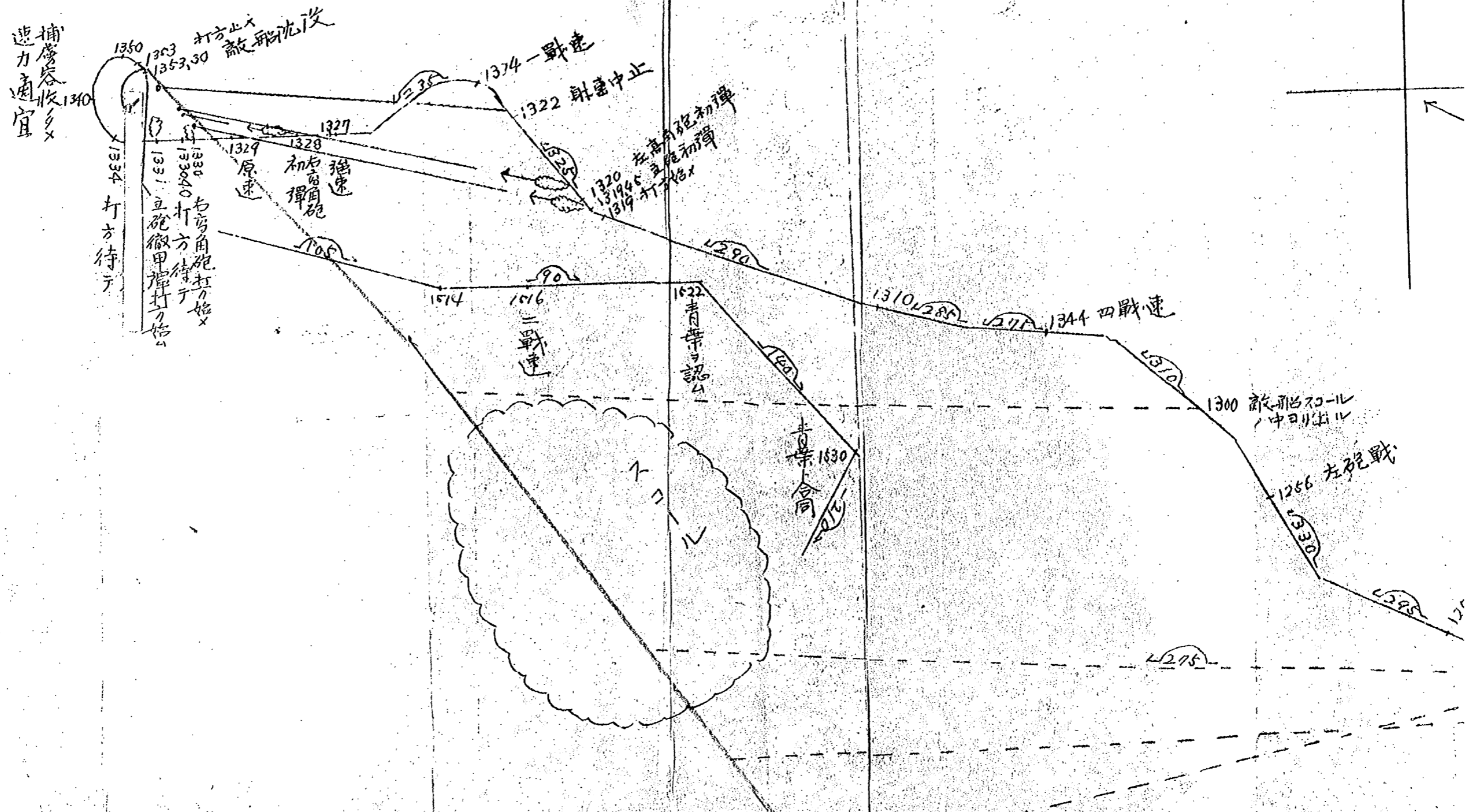
(終)

# 分割撮影ターゲット

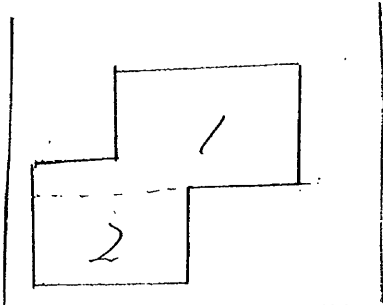
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 26 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	

軍艦利根合戦圖  
自昭和十九年三月九日一二〇〇  
至全右一六〇〇



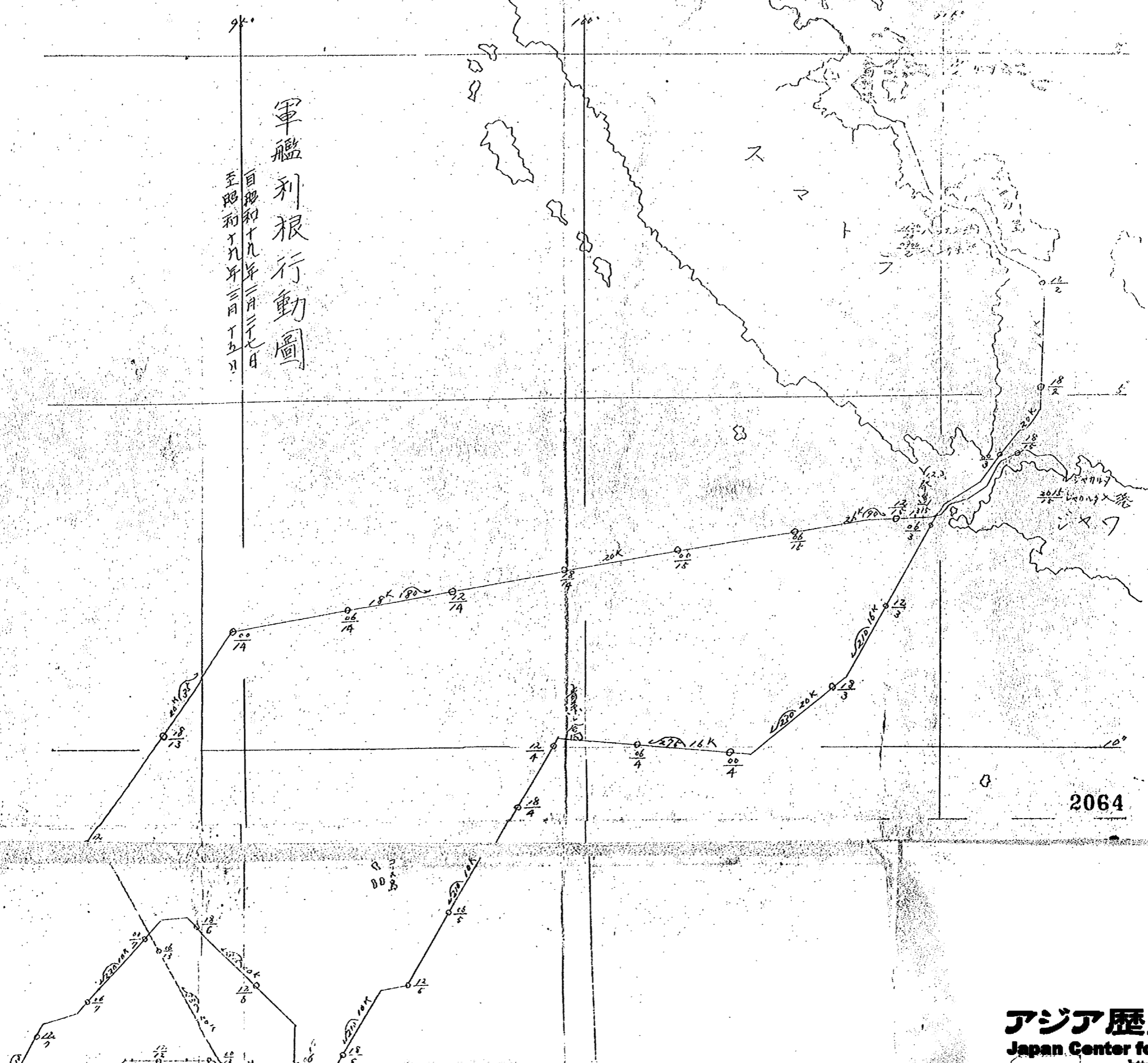


# 分割撮影ターゲット

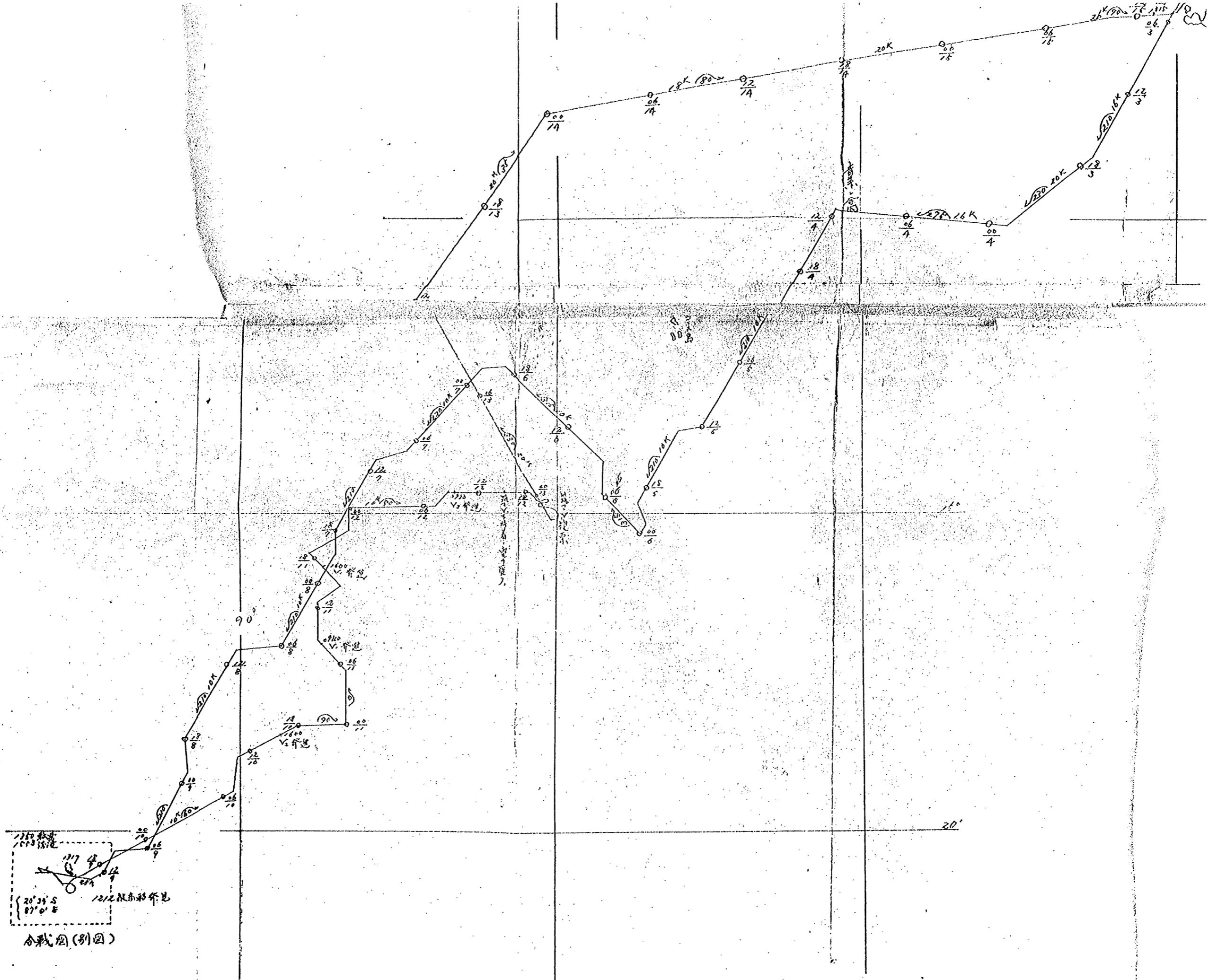
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 28 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	

# 軍艦利根行動圖

自昭和十九年三月二十七日  
至昭和十九年三月二十九日







12/12 北東部 折見  
 20° 34' S  
 87° 0' E  
 合戦図 (別図)

機密第三三三號

四月九日提出

青	"	青	青	"	青	青	月日
							昼
							發着艦所
							木
							艦
曹長 吉成 毅 曹 片桐 一英	曹長 久保 武雄 曹 海老根 鯨朗 曹 江川 五雄	曹長 久保 武雄 曹 海老根 鯨朗 曹 江川 五雄	曹長 吉成 毅 曹 片桐 一英	曹長 吉成 毅 曹 片桐 一英	曹長 吉成 毅 曹 片桐 一英	曹長 吉成 毅 曹 片桐 一英	搭乗員
							任務
							對潛
							哨戒
							經過
							概要
一〇九二〇 射發發艦 一二三〇 發着揚收	〇九四〇 射發發艦 一二三〇 發着揚收	一六一〇 射發發艦 一八四〇 發着揚收	一六〇〇 射發發艦 一九三〇 發着揚收	一五三〇 發着揚收	一八〇〇 發着揚收	一五三〇 發着揚收	消釋兵器發着艦况

毎車

(19.5)

青森	青森	青森	青森	青森	青森	青森
"	"	"	"	"	"	"
本	本	本	本	本	本	本
艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦
大尉 上曹 上曹	大尉 上曹 上曹	大尉 上曹 上曹	大尉 上曹 上曹	大尉 上曹 上曹	大尉 上曹 上曹	大尉 上曹 上曹
峰松秀男 藤原治郎 木間義勝	峰松秀男 藤原治郎 木間義勝	峰松秀男 藤原治郎 木間義勝	峰松秀男 藤原治郎 木間義勝	峰松秀男 藤原治郎 木間義勝	峰松秀男 藤原治郎 木間義勝	峰松秀男 藤原治郎 木間義勝
對潜 直イ	對潜 直イ	對潜 直イ	對潜 直イ	對潜 直イ	對潜 直イ	對潜 直イ
一三五 一七三	一三五 一七三	一三五 一七三	一三五 一七三	一三五 一七三	一三五 一七三	一三五 一七三
射分發艦 飯着	射分發艦 飯着	射分發艦 飯着	射分發艦 飯着	射分發艦 飯着	射分發艦 飯着	射分發艦 飯着
本	本	本	本	本	本	本
本	本	本	本	本	本	本

2068

青末日	月日	登別	發着艦所	搭乗員	任務	經過ノ概要	消耗兵器被害状況
登		水	艦	隊長 吉成毅 曹長 片桐英	對海	一四二〇分發 一九二〇分着揚収	本 多

(終)

(納付)